

各分科会における発言は活潑にして、進行上にも有効で非常に意義深いものがあつた。

三十一日午後一時より、各分科会の議長によりその報告が行われたのち、大会宣言文が発表され、二日間にわたる充実した大会の全日程を終り、午後二時より閉会式にうつつた。閉会式では、佐賀の古賀氏より、本大会開催について、開催県のつくされた非常な努力に対し、感激的の謝辞が述べられ、午後二時半閉会の幕はくだされ、来年の山口県における第五回大会に再会を約して散会した。

本年は開催日直前において、北九州に水害があり、本大会において参会者一同の厚き有情によりお見舞金が出され、佐賀県代表者に持参いただいたことは心あたたまる思いがしたことである。

何事においても三回までは続くものであるが、四回目はだれ気味になるのが普通である。しかし本大会は、第四回を迎えて一層盛會に、かつ充実して来たことは実によろこぶべきことで、いよいよ本研究大会も軌道にのって来た感を深くする次第である。

幼児教育の重要性がますます強く叫ばれている今日、わが国幼稚園教育の大半を受けている今日の私立幼稚園としては、行政面とともにその教育についても、互に連絡をとる、力をあわせて研究を重ね、その量におけると同様、質においてもわが国幼稚園教育のために、すぐれたものを持つよう努力して行かねばならない、来年は山口県に

において第五回を迎えるのであるが、さらに充実した大会をもつことを念願する。

なお本大会に先だつて、七月二十九日午後一時より、日光小西別館において、日本私立幼稚園連合会昭和三十二年度(第十

第四回全国国公立幼稚園

研究協議会の報告

齋藤敏夫

一、研究協議会の主題

今回の研究協議会は、幼稚園教育の広汎な分野から自然発生的な諸問題を取り上げるといふことではなく、研究協議会の研究主題をあきらかにし、この主題を解明するための分科会であり、研究発表であるようにとの意図で計画された。

すなわち「幼稚園教育要領を具体的に展開するにはどうするか」を主題とし、「幼稚園教育要領を現場で実施して一年間」の成果が研究発表として、會員の前に提示され、とくに問題となつたことがら、四つの問題に集約され、各分科会で分担し研究されることになつた。

二、會員に気安さと共感を与えたもの

梅雨明けの暑気の第一波が、どつと押しよせた第一日に、閉会式の前座を受けたレクリエーション係りの歌唱指導は、全国各地から来会された會員諸氏に、ホットした

回)総會が開催され、出席者約三百名にて、これまで非常に熱心に、事業報告、議案が審議され、昨年より更に組織強化されたことを強く感じた次第である。

(明德幼稚園長)

気安さと會員としての共感を抱かせるのに大きな役割を果たした。休憩時や全体集會の前に行われたこの企ては、會員を暑さと緊張感から解放するために、またとない働きを示した。

開会式につづく江波女史の「職場における婦人の発展」と題する講演は、會員に多くの示唆を与えるとともに、仲間として意識を培うのに有効であつた。

三、研究発表について

研究発表は、函館幼稚園の「教育要領を現場に展開してみても一年」をはじめとして、七人の方からなされたが、この七人の方のお話を伺つて感じたことは、幼稚園教育の柱ともいふべき基本的目標と、框組ともいふべき六領域の内容とを、いずれも立体的に受けとめ、この中に塗りこむ壁や、はめこむ板をどうするかについて、各園それぞれ環境を見究め、環境からくる社会的要求をはあくし、幼児の能力や状態をしつ

かり押さえ、その交したところで目標を具体化し、内容をかみくだいて年間計画をたてるために努力されていることであつた。このことは、現場の私どもに大きな力を与えた。

総合的に教育要領を取り上げた発表の中で、函館幼稚園の岡田氏は、小学校との一貫性、目標の具体化そして指導上の留意点などについて、独自の研究を重ね、とくに教育課程（大単元の系列）の構成上努力された点について述べられた。島根県浜田幼稚園の島村氏は、総合的な単元展開の中に、系統性と組織性とをどのように考えていったらよいかを、ごっこ遊びを通して述べられていた。千葉大学附属の江川氏は、各領域の意味づけや性格を明かにし、言語の領域における基底について発表され、その段階づけは、示唆に富むものであつた。ひとつの領域に関するものとしては、子どもを抑圧感から解放し、制作意欲を高め、創造性を培うためには、どのように指導を考へなければならぬかを、実演を通して、京都市明德幼稚園の藤本氏が発表された。将来の発展を期待したい。別府市北幼稚園の長崎氏は、言語指導の計画をたてるために、どのような基本調査をなしたかについて、実施要項を提示された。また桑名幼稚園の益田氏は、困難といわれる自然観察の施設、設備、指導計画などについて苦心の結晶を発表された。最後に、遠隔の地から通う幼児、谷川の水で生活を営む家庭の幼児たちをどう指導したかという、徳島県

石井幼稚園の尾形氏の発表は、深い愛情に貫かれていたものであつた。

四、分科会について

分科会は、研究協議会の中心をなすものであり、指導講師の先生と司会者とは、それぞれ数回にわたって打合せを行い、よりよい効果を上げることができるようとの念願で準備を整えた。

第一分科会は「集団指導について」というテーマで、東京大学の三木氏の指導と南山の中村氏の司会によってすすめられた。①集団指導の意味づけ②集団指導の方法―入園当初 問題児③集団指導の場などについて話し合いがすすめられた。とくに自然発生の集団から学級集団への発展、集団の中のひとり遊びの指導などについては熱心な討議がすすめられた。「個別指導も集団の中で行われる」という三木氏のお言葉は意味が深い。

第二分科会は、お茶の水女子大学の武田氏の指導と筆者の司会によって行われた。主題は「教育要領のうけとめ方」で、その内容としては、①教育要領とも意味―保育要領との対比から②目標と内容との主體的なうけとめ方が、中心をなした。武田氏の「目標の具体化、内容の段階づけは、それぞれ幼稚園や地域で」というお話しと、台東区竹町・新宿区牛込仲の両園の「健康」「自然観察」の実践例は、会員の意見発表とともに、この分科会の支柱となつた。

第三分科会は「表現活動について」―論議されたのであるが、東京学芸大学の角尾氏

の指導と文京第一幼稚園の山村氏の司会によって行われた。まず、①表現活動の意味と、自己表現によって自主性、安定性；幸福感がもたらされるという積極的な意義づけが明かにされ、②表現活動は何によつてなされるか、③六領域を表現活動の中で、どのように考えるべきか等については解明されていった。言語表現についてはとくに問題が多く出されたようである。

第四分科会「一口の教育計画」のテーマで、お茶の水女子大学の松村氏の指導と済美の樋口氏の司会によって運ばれた。最も沢山の会員が集り、多くの資料を用意されたこの分科会では、活気のある空気があふれていて、自由遊びと自由保育との討議を通して、慣例的な考え方を打破して、新たな意義を発見しようとする意欲が述べられ、会員の前進する姿がうかがわれた。とくに今後引き続いて研究グループがめたれようとしていることは、身ぢかな問題であるからという理由だけではなく、積極的な熱意を感じる事ができる。

五、終りに

分科会の報告会を最後に閉会式が行われ、二日間の日程を終えることができた。なごやかな空気に包まれたこの研究協議会について、会場いっさいのお世話をなさつたお茶の水女子大学の先生方に厚くお礼を申上げるとともに、水害地諫早へ、研究会から帰られた先生方に心からのお見舞を申あげて結びとしたい。

（東京都千代田区立小川幼稚園長）